

指導と評価の計画 [体育]

領域 球技 ネット型 バドミントン

年次：(3年次)

単元の目標	知識及び技能	バドミントンについて、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ネット型では、状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	授業づくりのポイント
0	健康観察 ・ 準備運動 ・ 本時の目標確認 ・ 内容等の確認														
10	オリエンテーション	【学び直し】 ・ラケットでシャトル遊び 協働学習 (2人1組) ・ネットを挟んでラリー練習 ・サーブ ・ラリー練習	ICT	【グループ学習 ララリー・サーブ練習】 協働学習 ・ラリー練習→正しいフォームできているか確認 ・場面練習 ・実際にシャトルを打つ姿をICTで撮影→確認 ・グループで話し合い	ICT	【チームごとの練習】協働学習 ・ラリー、サービス、チームの課題に応じた練習など									<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習を行うことができるようにするためにICTを効果的に活用する。 ・多様な関わり方を経験できるようにする。 ・様々な違いに応じた課題や課題解決に向けた挑戦などを尊重できるようにする。
20	健康・安全の確認			ボール操作		ICT									
30	ストレッチ (ストローク・サービス・ラリー)	チーム決め		【ラリー練習・サーブ練習】 ・ラリーの中で正しいフォームを意識し、		ICT									
40	実態把握 (試しのゲーム)	○試しのシングルス戦 ○チャンピオンゲーム		○簡易ゲーム (シングルス) チャンピオンゲーム →3点先取で王様交代 → 3連勝で上位コートに移動 男女別 → 男女合同		ICT									
50	整理運動 ・ 本時のまとめ ・ 学習カードの記入 ・ 次時の課題など														

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	評価方法
評価機会	知識			②					③			①			総括的な評価 ICT 観察、ICT 観察、ICT 観察
	技能		(②)		(①)	(③)	(④)	①	②		③		④		
	思・判・表				②	①	③						④		
	態度	(①) (③)	(②)						①	②	③		③		

単元の評価規準	知識	①バドミントンの局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて言ったり書き出したりしている。 ②課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、言ったり書き出したりしている。 ③競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、言ったり書き出したりしている。
	技能	①シャトルをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ②シャトルに変化をかけて打ち出したり、変化に合わせて返球したりすることができる。 ③シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ④ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きができる。
	思・判・表	①バドミントンについて、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘することができる。 ②課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見つければいいところがある。 ④バドミントンの学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。
	態度	①バドミントンの学習に主体的に取り組もうとしている。 ②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ③一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。